

RIKEN TSUKUBA INSTITUTE

B R C

RIKEN BIORESOURCE CENTER

理研バイオリソースセンター



独立行政法人
理化学研究所筑波研究所

目次

- ご挨拶3
- BRCのミッション4
- BRCのリソース：マウス5
- BRCのリソース：シロイヌナズナ6
- BRCのリソース：細胞7
- BRCのリソース：遺伝子8
- BRCのリソース：微生物9
- 各室の概要10
- 沿革・予算・人員13
- 施設配置図13
- 組織14
- バイオリソースセンターの事業15

信頼性、継続性、先導性のために！



ご挨拶



筑波研究所 所長
バイオリソースセンター長
小幡 裕一 (理博)

理化学研究所バイオリソースセンター（理研 BRC）は、2001年1月に理研筑波研究所に設置されて以来、「信頼性」「継続性」「先導性」をモットーに事業を展開して参りました。実験動物マウス、実験植物シロイヌナズナ、ヒト・動物細胞材料、遺伝子材料、微生物材料、当センターが整備しているいずれのリソースについても、世界の三大拠点の一つとして認められるまでに至りました。これも研究コミュニティと国民の皆様のご理解とご支援のおかげと、心より感謝いたしております。今後も引き続き事業を発展させていきたいと考えています。

2011年8月に制定された第4期科学技術基本計画では、「科学」「技術」に加えて「イノベーション」の推進、さらに2011年3月11日に発生した東日本大震災からの「復興」「再生」を掲げています。世界は今、環境、エネルギー、食料、感染症など地球規模の様々な問題に直面しています。これらの諸問題を解決するための課題達成型の科学、技術、イノベーションを進めることにより、我が国と我が国の国民の持続的な存続と発展を実現することが目標となっています。当センターは、バイオリソースが科学、

技術、イノベーション、そして復興の礎として、新たな価値を創出することを願い、事業に邁進する所存です。

あらゆる方面で台頭著しいアジアにおいて、リソース機関のネットワーク Asian Network of Research Resource Centers (ANRRC) が2010年に発足し、十数ヶ国のリソースが参加しています。当センターはANRRCのネットワークを先導し、バイオリソースの整備と利用について、目的の共有から技術の普及まで幅広い分野で活躍し、アジアのリソースセンターを牽引する役割を担っていきたくと考えております。

さて現在、バイオリソースについての開発および確保に関する世界各国間の競争が激化しています。一方では、研究開発に必要なバイオリソースは爆発的に増加しており、全てのバイオリソースを一国、一機関で整備することが不可能となっており、国際連携・協力が求められています。当センターは、我が国の中核的拠点として、バイオリソースに関する様々な国際的取り組みに主導的に参加しています。

これまでの経験を生かして研究動向をよりの確に把握し、先導的かつ迅速、柔軟にニーズに対応することにより、常に必要とされ、支持されるセンターになるように努力いたす所存です。当センターは皆様の支援と要望によって成り立っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

理化学研究所バイオリソースセンターは、2001年創設以来順調な発展を遂げ、10年にして、マウス系統、シロイヌナズナ系統、ヒト・動物細胞、遺伝子材料、微生物系統等の重要リソースについて、いずれも世界的拠点の一つとして国際的に認められ、欧米およびアジアのリソース事業ネットワークにも主要メンバーとして参画するようになりました。創設期の運営に携わった者として、これまでの所員のご努力と学術及び行政分野の関係者各位のご支援に深く感謝しております。理研 BRC の今後進むべき方向については、リソース事業を巡る国内外のライフサイエンスの動向を踏まえて所長が示されているので繰り返しません、今や社会と深い関わりを持つようになったライフサイエンス研究の不可欠の基盤であるバイオリソース事業を支える人材について、関係者各位の更なるご理解を得たいと思います。

事業運営の統括者は事業に精通した者であるべきですが、ともに大切な人材は、この事業の中核を担当する専門技術者諸君です。日々の技術的な業務に追われるこの方々を、発表論文のみで評価することは現実的でなく、安定的な独自の職階制が必要です。このセンター運営のモットーとしてきた「信頼性」「継続性」を確保するための大切な要件の一つとして、関係者各位のご理解を得たく存じます。



理化学研究所理事長
野依 良治 (工博)

野依イニシアチブ

1. 見える理研
2. 科学技術史に輝き続ける理研
3. 研究者がやる気を出せる理研
4. 世の中の役に立つ理研
5. 文化に貢献する理研

第2期中期計画における三本柱

- ◆科学技術に飛躍的進歩をもたらす理研
- ◆社会に貢献し、信頼される理研
- ◆世界的ブランド力のある理研

生命科学研究の発展に貢献する

それが理研 BRC のミッションです

再生医療

細胞で病気を治す
質の高い長寿社会の実現

がん治療

新しい予防法・診断法の開発
最先端治療戦略の推進

食料問題

スーパー植物の開発
健康に有用な食品開発

問題解決に

バイオリソース
生物遺伝資源が
不可欠！

基礎基盤研究

すべてのライフサイエンスを支える根幹

環境問題

バイオエネルギーの開発
地球温暖化対策

物質循環

廃材などを土にもどすシステム
生分解性プラスチックの開発



特別顧問
森脇 和郎 (理博)

基礎研究の成果を環境・食料へ

シロイヌナズナ

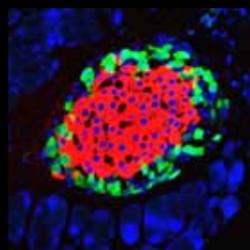
遺伝子の働きの解明に役立つシロイヌナズナ変異体群と様々な環境に適応したシロイヌナズナ野生系統を多数提供しています。

シロイヌナズナの研究成果を、野菜や穀物生産につなげる植物遺伝子データベース SABRE(セイバー)を公開しています。

基礎研究から物質代謝研究まで幅広いニーズに応える種々のモデル植物の培養細胞リソースを提供しています。
(実験植物開発室)



マウス

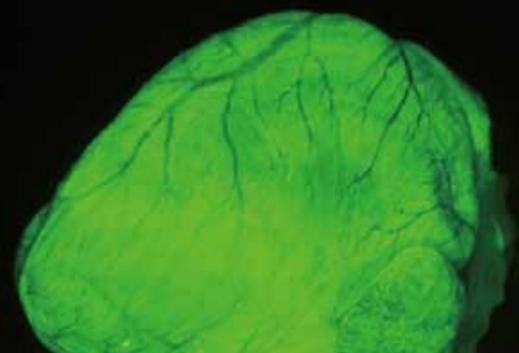


ヒトの病気の治療や創薬の研究に役立つモデルマウスを収集・保存し、高品質なマウスを提供します。

研究ニーズのあるマウス系統を開発し、マウスの収集・保存・品質管理・提供に必要な技術開発を実施します。

技術研修によりマウスを用いた研究に必要な高度な技術を普及し、世界のマウスリソース機関と連携してライフサイエンス研究の推進に貢献します。

(実験動物開発室・遺伝工学基盤技術室)



基礎から医療への応用と創薬研究に

体のしくみを理解するツール

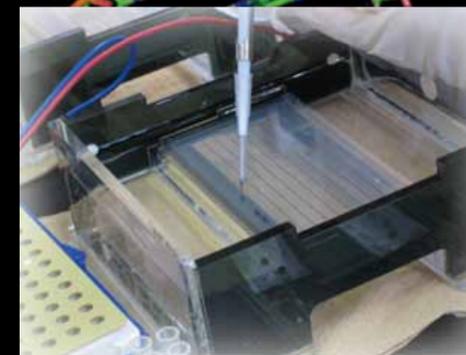
遺伝子

健康や環境の重要な課題の解決に取り組む「いきものを知る学問」を推進し、その発展に貢献します。

遺伝子材料は、基礎から応用まで、医学、理学、工学、農学など、ほとんど全てのライフサイエンス研究に必須の実験材料です。

今日、遺伝子材料は取り寄せる時代になりました。インターネットを使って、目的の遺伝子を組み込んだ実験材料を容易に検索できます。

(遺伝子材料開発室)



細胞

お預かりした細胞の30%近くにマイコプラズマの汚染が認められ、10%近くに細胞の誤認が認められます。細胞材料開発室では、マイコプラズマ汚染や細胞誤認がないことを確認した高品質な細胞のみを提供しています。

がん細胞株、万能細胞(ES細胞、iPS細胞)、臍帯血(へその緒の血液)など、様々な細胞材料を幅広く整備し、基礎生物学から臨床医学まで広範な研究分野に貢献しています。

細胞培養にかかる研修を行い、BRCの優れた技術の移転も積極的に行っております。

(細胞材料開発室)

基礎生物学から臨床研究まで

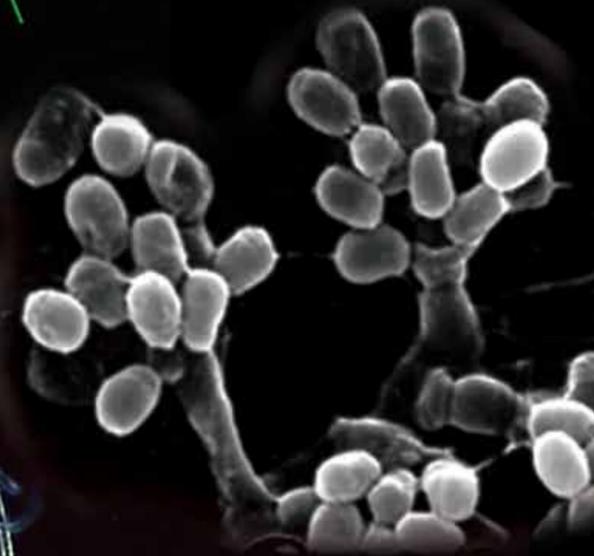
微生物

微生物種の標準となる株を多数整備し、取り換えや混入のない高品質の微生物株を提供して、基礎から応用まで広範な学術・研究分野に貢献しています。

再生可能で環境にやさしいバイオエネルギーや生分解性プラスチックの生産、環境汚染物質の分解など環境問題解決の研究に有用な微生物株を多数整備しています。

ヒトや生活環境の常在微生物を多数整備し、腸内環境や免疫能力の改善、抗生物質生産、発酵食品の製造など健康のための研究に役立っています。

(微生物材料開発室)



理研 BRC の各室の概要



実験動物開発室 NBRP 実験動物マウス

室長 吉木 淳 (農博)
Atsushi YOSHIKI, Ph.D.

Experimental Animal Division

- 我が国で開発されたヒト疾患や遺伝子機能解析のためのモデルマウスを収集・保存・品質管理・提供
- 研究ニーズに応えるマウス系統を開発し、マウスの収集・保存・品質管理・提供に必要な技術開発を実施
- 技術研修によりマウスリソースの利用に必要な高度な技術を普及し、世界のマウスリソース整備機関と連携してライフサイエンス研究の推進に貢献

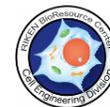


実験植物開発室 NBRP シロイヌナズナ

室長 小林 正智 (農博)
Masatomo KOBAYASHI, Ph.D.

Experimental Plant Division

- 植物科学の基礎基盤研究を支える代表的なモデル植物、シロイヌナズナの種子、培養細胞、遺伝子の収集、保存、提供
- 環境、食料、物質生産に関わる研究に貢献するモデル植物の培養細胞、遺伝子の収集、保存、提供
- 保有するリソースの効率的な利用に貢献する新規の技術とデータベースの開発及びその普及のための活動



細胞材料開発室 NBRP ヒト・動物細胞

室長 中村 幸夫 (医博)
Yukio NAKAMURA, M.D., Ph.D.

Cell Engineering Division

- がん細胞株などの培養細胞、幹細胞 (ES 細胞、iPS 細胞、臍帯血等)、ヒトゲノム遺伝子解析研究用の細胞など様々な細胞を整備し提供
- 研究者が作成・樹立した細胞の寄託を受け、品質管理・標準化等の作業を行い、実験再現性を担保した高品質な細胞を提供
- 細胞培養研究分野での最先端技術の普及を目的として、培養技術研修を開催。現在は、ヒト ES 細胞及びヒト iPS 細胞に係る技術研修会を定期開催中



遺伝子材料開発室 NBRP 遺伝子材料

室長 (兼務) 小幡 裕一 (理博)
Yuichi OBATA, Ph.D.

Gene Engineering Division

- 実験の再現性を確保した遺伝子材料の提供により、健康や環境の重要な課題を解決する研究に貢献
- 遺伝子強制発現のための発現ベクターや遺伝子発現をモニタリングするためのレポータークローンとして、ヒト、動物、微生物の遺伝子を提供中。企業が所有する技術を用いて作製されたリソースも学術研究には一定の条件のもとでの利用を実現
- 個々の研究者が作製したクローンやナショナルプロジェクトの研究成果のクローンなど最新のリソースを整備、提供
- 貴重なリソースを安全に保管し、リソース開発者の知的財産権を守りつつ、希望者に提供



微生物材料開発室 NBRP 一般微生物

室長 大熊 盛也 (農博)
Moriya OHKUMA, Ph.D.

Microbe Division/JCM

- 学術・研究に重要な細菌、アーキア、真菌および多様な微生物の種の基準となる保存、提供
- 環境と健康のための研究に貢献する微生物リソースの整備と、それらのデータベースの拡充、高付加価値化や関連の技術開発
- 培養性状や遺伝子検査による徹底した品質管理と安定した保存により信頼のおける高品質の微生物株を提供



情報解析技術室

室長 深海 薫 (学術博)
Kaoru FUKAMI, Ph.D.

Bioresource Information Division

- リソース情報の収集・解析・管理と、ウェブカタログの開発・運用をととしたリソース情報の研究コミュニティへの発信
- オンラインで提供申込書類の作成支援を行うシステムなど、リソースを利用しやすくするための利用者向けツールの開発・運用
- 理研 BRC のリソース整備事業の業務を効率的に行うために必要な提供情報処理・管理システムの開発・運用

バイオリソース品質管理支援ユニット

Support Unit for Quality Management



ユニットリーダー 茂木 久雄
Hisao MOTEGI

国際統一規格 ISO9001 認証

確かな品質のバイオリソースを提供する取り組み

バイオリソースセンターが最高品質のバイオリソース及びサービスを提供し、総合的な顧客満足度を達成するために、品質マネジメントシステム（QMS）に関する取り組みをリードしています。

- 確かな品質のバイオリソースを提供するための仕組み『ISO9001』の認証維持と ISO マネジメント概念の水平展開
- 日本のモノづくりの強み『総合的品質管理（TQM）』を基盤とした、顧客重視、人材育成、継続的改善の取り組み
- 『情報通信技術（ICT）』を活用した情報デジタル化による、高品質で、速くて、楽な業務プロセスの実現と標準化



遺伝工学基盤技術室

Bioresource Engineering Division

室長 小倉 淳郎（農博）
Atsuo OGURA, D.V.M., Ph.D.

- 核移植クローン法：安定したクローンマウス作出技術を開発。実用化へ大きく前進
- 顕微授精法：正常精子はもちろん、未成熟精子（精細胞）や凍結マウスの回収精子から子孫を作出
- 胚・生殖細胞の凍結・輸送法：あらゆるマウス系統に最適な胚・精子の凍結保存法を開発し、ドライアイス温度で海外輸送を達成
- 新規幹細胞の樹立法：多様な研究目的に応じたマウス ES 細胞、新たな可能性を秘めたウサギ ES 細胞・iPS 細胞の樹立に成功
- 研修事業（マウス精子・胚の凍結保存方法、マウス ES 細胞の樹立・保存方法など）



動物変異動態解析技術開発チーム

Technology and Development Team for Mammalian Cellular Dynamics

チームリーダー（兼務）阿部 訓也（理博）
Kuniya ABE, Ph.D.

- 機能ゲノム解析技術の開発：高品質 BAC ゲノムライブラリーを起点とした各種マウス系統の遺伝子型解析や遺伝子導入法の開発
- 胚性幹細胞、生殖細胞の特性情報収集：独自に開発した可視化リソースと微量解析技術による、ゲノム再プログラム化の「場」である細胞群の特性の追究
- 生体蛍光イメージング：特殊レンズを装着した生体内顕微鏡による、生きたマウス個体内の細胞動態、機能の解析



生体応答情報技術開発サブチーム

Subteam for BioSignal Integration

サブチームリーダー 土井 貴裕（医博）
Takahiro DOI, M.D., Ph.D.

- 免疫制御機構（自己免疫疾患の発症および炎症の制御）の機序解明に向けた研究
- 骨代謝制御機構の解明に向けた研究
- 造血幹細胞再生機構の制御システムの解明に向けた研究



細胞運命情報解析技術開発サブチーム

Subteam for Manipulation of Cell Fate

サブチームリーダー 三好 浩之（理博）
Hiroyuki MIYOSHI, Ph.D.

- 造血幹細胞を体外で増幅するための技術開発
- ES 細胞や iPS 細胞などの多能性幹細胞の安全かつ効率のよい樹立法および安定した増幅法の開発
- 細胞に遺伝子を導入するためのウイルスベクターの開発と幹細胞生物学への応用研究



マウス表現型解析開発チーム

Technology and Development Team for Mouse Phenotype Analysis: Japan Mouse Clinic

チームリーダー 若菜 茂晴（農博）
Shigeharu WAKANA, Ph.D.

- 遺伝子改変マウスを中心に基本解析パイプラインと詳細解析パイプラインによる階層的かつ網羅的なマウス表現型解析
- 国際マウス表現型解析コンソーシアム（IMPC: International Mouse Phenotyping Consortium）参画によるマウス表現型解析整備事業による国際貢献
- ヒト疾患の臨床型データとの対応や世界のマウス表現型情報との統合を通じたマウスリソースの付加価値向上による知的基盤整備



疾患モデル評価研究開発チーム

Team for Advanced Development and Evaluation of Human Disease Models

チームリーダー 野田 哲生（医博）
Tetsuo NODA, M.D., Ph.D.

- 先端解析技術の開発：プロテオーム解析、メタボローム解析などを用いた先端的表現型解析法を確立し、代謝性ヒト疾患研究に有用な疾患モデルを開発
- 生理機能異常モデルの解析：血圧、聴覚等の生理的機能異常を示す変異マウスの責任遺伝子同定を実施し、リソースの価値向上および生理機能の分子基盤の理解に貢献
- 包括的解析によるヒト発がんモデルの確立：先端的手法を用いた解析を行い、がんの超早期診断法開発や創薬に寄与するモデルを開発



新規変異マウス研究開発チーム

Mutagenesis and Genomics Team

チームリーダー 権藤 洋一（Ph.D.）
Yoichi GONDO, Ph.D.

- 希望の遺伝子に点突然変異をもつマウスの提供：1 遺伝子に多いときは 10 を 越える点突然変異系統を提供可能な逆遺伝学的リソース
- マウスの全エキソターゲットシーケンシング：ゲノムワイドな未知コーディング変異の検出や高速変異マッピングを実現
- 遺伝子間相互作用も含んだ次世代版ジーンターゲットシステム提供：戻し交配なしに修飾遺伝子も含む多因子モデルマウスの開発へ



マウス表現型知識化研究開発ユニット

Technology and Development Unit for Knowledge Base of Mouse Phenotype

ユニットリーダー 榎屋 啓志（理博）
Hiroshi MASUYA, Ph.D.

- 情報技術開発：バイオリソースの「特性」情報を整理統合し、広く情報提供することにより、研究目的に合った材料を利用できるようにする
- 国際貢献：世界のリソースセンターや情報センターと連携し、情報を統合することで、誰でも簡単にバイオリソース情報を利用できるようにする
- 生命科学の先導：整理統合された情報をマイニングすることにより、新たな現象の発見や仮説の提示を目指す

バイオリソース連携研究グループ

Bioresource Research Collaborative Group

筑波研究所では、バイオリソースの開発や高度化等に必要とされる研究をバイオリソースセンターと協力して行うことにより、バイオリソース事業の推進に貢献されることが期待される連携研究グループを招聘しています。

石井連携研究グループ

Ishii Research Collaborative Group

ラボラトリーヘッド 石井 俊輔（理博）
Shunsuke ISHII, Ph.D.

- 各種転写制御因子の変異マウスの作製・解析によるリソース事業への貢献
- リプログラミングの分子機構解析と新たな iPS 細胞作製技術の開発によるリソース事業への貢献
- 各種変異マウスを用いた遺伝子発現ネットワークの解析によるリソース事業への貢献

篠崎連携研究グループ

Shinozaki Research Collaborative Group

ラボラトリーヘッド 篠崎 一雄（理博）
Kazuo SHINOZAKI, Ph.D.

- 草本のモデル植物ブラキポディウムを用いたソフトバイオマスエンジニアリングの研究リソース基盤整備
- シロイヌナズナの cDNA 収集や遺伝子破壊変異体の表現型解析などによる変異体リソースの高度化への貢献
- 乾燥耐性に関わる植物遺伝子の探索と遺伝子組み換え技術を利用した乾燥耐性イネ、コムギ、ダイズの開発

沿革

大正 6 年 (1917)	3 月 財団法人理化学研究所創設
昭和 23 年 (1948)	3 月 株式会社科学研究所発足
昭和 33 年 (1958)	10 月 「理化学研究所法」施行 特殊法人理化学研究所発足
昭和 49 年 (1974)	5 月 「ライフサイエンス推進部」を設置
昭和 59 年 (1984)	10 月 「ライフサイエンス筑波研究センター」開設
昭和 62 年 (1987)	5 月 ジーンバンク事業開始
平成 12 年 (2000)	4 月 「ライフサイエンス筑波研究センター」を 「筑波研究所」に改称
平成 13 年 (2001)	1 月 「筑波研究所」にバイオリソースセンター 設置
平成 15 年 (2003)	10 月 特殊法人から独立行政法人理化学研究所へ 移行 (第 1 期)
平成 16 年 (2004)	7 月 理化学研究所中央研究所において運営 されてきた微生物系統保存事業 (Japan Collection of Microorganisms, JCM) をバ イオリソースセンターへ移管
平成 20 年 (2008)	4 月 独立行政法人第 2 期開始 ゲノム科学総合研究センターのゲノム機能 情報研究グループをバイオリソースセンタ ーに移管し、3 チーム、1 ユニットとして 設置

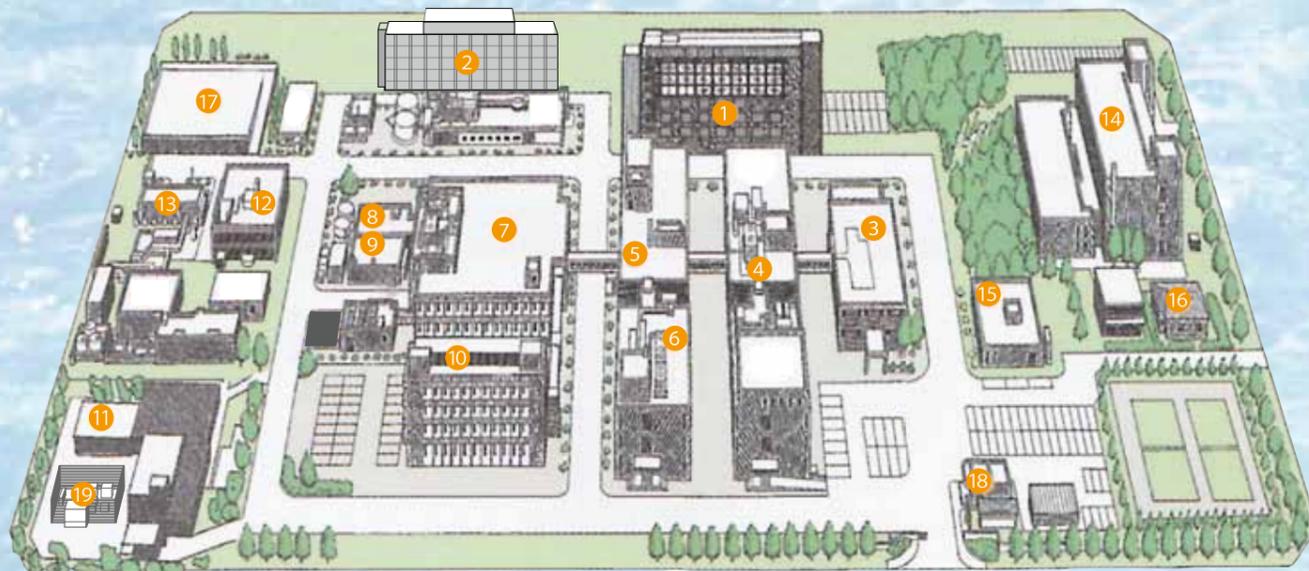
予算 (平成 24 年度)

バイオリソースセンター 運営費交付金	約 29 億円
外部競争的資金 (科研費等)	約 4 億円
[平成 23 年度実績、直接経費]	

人員 (平成 24 年 4 月 1 日)

● 研究開発	391
定年制常勤研究者	33
任期制常勤研究者	52
テクニカルスタッフ	82
基礎科学特別研究員	4
ジュニアリサーチアソシエイト	1
派遣職員	75
客員研究員	28
業務委託・パートなど	116
● 事務職員	43
● 合計	434

施設配置図



- | | | |
|---------------|-----------------|--------------|
| 1 バイオリソース棟 | 9 蓄熱棟 | 17 立体駐車場 |
| 2 細胞研究リソース棟 | 10 ヒト疾患モデル開発研究棟 | 18 守衛所 |
| 3 事務棟 | 11 解析研究棟 | 19 特別高圧受変電施設 |
| 4 情報・微生物棟 | 12 エネルギーセンター | |
| 5 研究棟 (第 1 期) | 13 実験排水処理施設 | |
| 6 研究棟 (第 2 期) | 14 外来者宿泊施設 | |
| 7 組換え DNA 実験棟 | 15 食堂 | |
| 8 高圧滅菌棟 | 16 厚生施設 | |

組織



理研バイオリソースセンターの事業

— 個体から遺伝子、情報まで —



理研BRCは“信頼性”“継続性”“先導性”をモットーに事業を展開しています。

① バイオリソース整備事業

ライフサイエンス研究の進展に貢献するため、動植物個体、細胞株、遺伝子材料、微生物材料及びこれらに付随する情報の収集、開発、管理、解析、保存及び提供を行います。

② 基盤技術開発事業

リソースの維持、保存及び利用のために必須な、効率のよい核移植法、顕微受精法の確立、胚や生殖細胞の凍結保存法や輸送技術など先導的な生体工学の基盤技術開発を行います。

③ バイオリソース関連研究開発プログラム

研究ニーズに応じた新規のリソースの開発、リソースの付加

価値を高めるための技術開発、ならびに新たなヒト疾患モデルマウスの表現型解析技術の開発、その情報を広く研究コミュニティに公開して研究の推進に貢献します。

④ 研修事業

リソースの高度な利用を図るために研修事業を行っています。

⑤ 国際協力事業

海外の関連機関と連携してネットワークを構築するとともに、研究協力覚書 (MoU) を結ぶなどして国際連携と分担を推進します。

RIKEN BRC
ブランドの確立

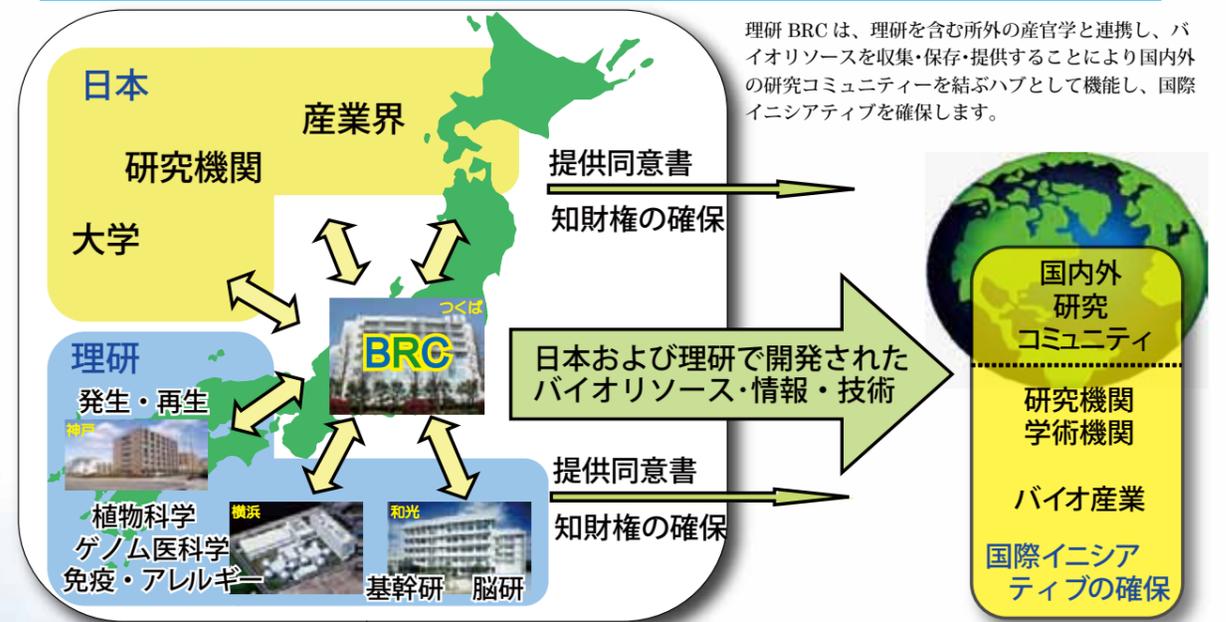
信頼性・継続性・先導性

ナショナルバイオリソース・プロジェクト／我が国の知的基盤整備

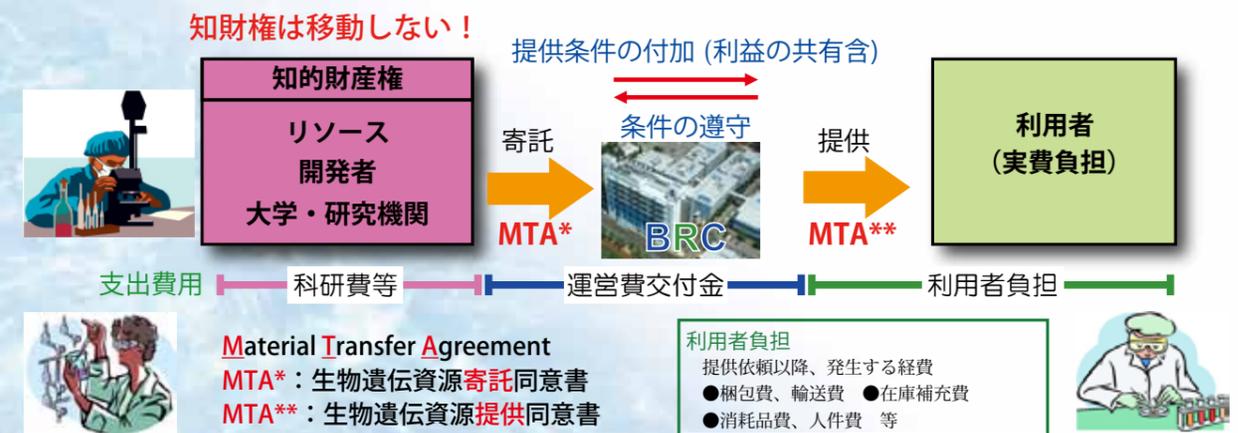
提供事業 リソース・情報
研修事業 関連技術移転 人材育成



理研BRC：わが国と理研の研究成果の発信基地、共同研究のハブ



リソース整備：寄託者の知財権確保と利用の促進



わが国の貴重なリソースの保全と持続的利用



バイオマス工学研究プログラムへの参画



アジアネットワーク構築、人材育成、技術移転

- アジアにおける実験動物科学分野の底上げを目指し、アジアの9機関と Asian Mouse Mutagenesis and Resource Association (AMMRA) を設立 (第6回・平成23年シンガポールで会議開催)
- 台湾国家実験研究院と MoU 再締結 (平成22年)
- 中国蘭州生物製品研究所と MoU 再締結 (平成23年)
- 韓国生命工学研究院 (KRIBB) 理研の包括協定調印 (平成18年)、平成19年 KRIBB 生物評価センター (BEC) および KRIBB 微生物ゲノム応用センター (MGAC) と MoU 締結
- 台湾国立陽明大学と MoU 締結 (平成21年)
- 中国科学院微生物研究所微生物資源センター (IMCAS-BRC)、韓国国家研究素材センター (KNRRC) と MoU 締結 (平成21年)
- アジア研究資源ネットワーク (Asian Network of Research Resource Centers, ANRRC) 共同設立 (平成21年)
- 第3回 ANRRC 会議に参画 (平成23年・北京)



人材育成・技術移転

国家実験動物センター(台湾)、蘭州生物製品研究所(中国)、建国大学校(韓国)等、海外からも研修生を受け入れております。

研修事業:リソース活用のための技術普及

実施課題 (平成23年度)

- 実験動物: マウスの品質管理に関する研修
- 実験植物: シロイヌナズナ T87 細胞の維持及び形質転換等
- 細胞: ヒト iPS 細胞凍結保存技術研修等
- 遺伝子: 遺伝子材料の保存と品質管理等
- 微生物: 細菌の取扱いに関する技術研修
- 遺伝工学: マウス精子・胚の凍結保存方法等

参加機関

- 東京大学、京都大学、東北大学、九州大学、筑波大学、東京医科歯科大学、山形大学、日本医科大学、慶応大学、産業技術総合研究所、製薬メーカー、企業研究所、食品メーカー、自動車メーカー等



国際プログラム・アソシエイト(IPA)

国際プログラム・アソシエイト制度とは、理研が国内あるいは海外の大学との協定に基づいて、外国籍を有する大学院博士課程の留学生を受け入れ、学位取得のための研究指導などを行う制度です。認定されると、国際プログラム・アソシエイト(IPA)の身分を取得し、3年を上限として、渡航費、滞在費、宿舍費等の補助を受けることができます。

理研BRCは、筑波大学や台湾陽明大学等と国際プログラム・アソシエイト協定を結び、外国人留学生の受入を行っています。

Curiosity Knows No Borders

バイオリソースセンターの広報活動

- ホームページを充実させています (リソース情報、プロトコール、Q&Aなど)
- メールニュースを各開発室から毎月お送りしています (「今月のリソース」も紹介しています)
- 学会において展示ブースによる事業の紹介、資料配付、ご質問をお受けしています
- つくば市の一般向け展示施設「つくばサイエンスインフォメーションセンター」に常設展示しています
- 一般公開を4月の科学技術週間に2日間開催しております
- 細胞研究リソース棟に展示施設を設置しました

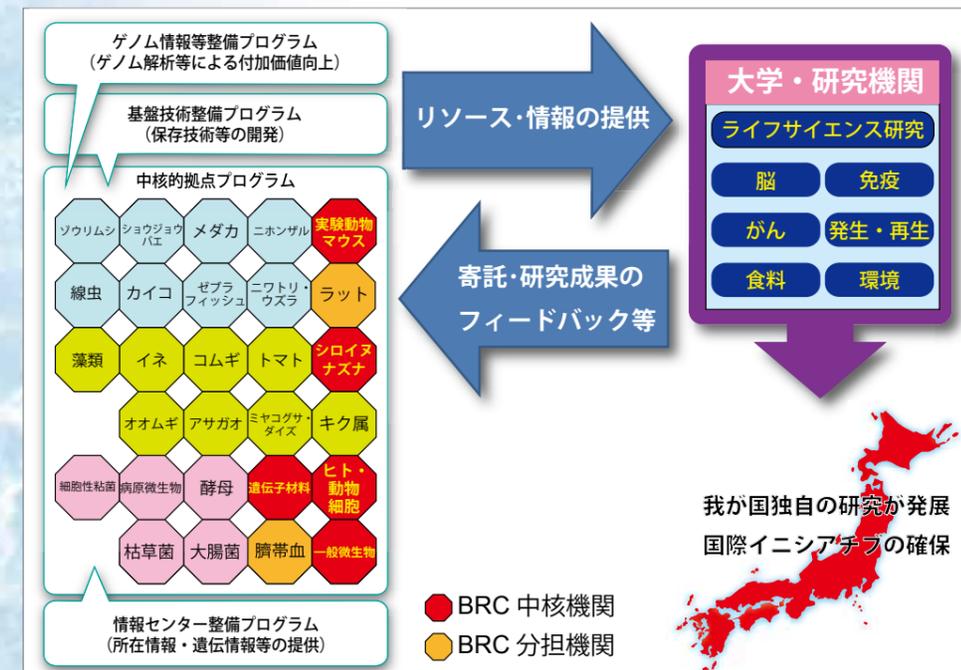


展示する学会を理研 BRC ホームページでご案内しております。是非ご参集下さい。

www.brc.riken.jp/

NBRP(National Bioresource Project)

NBRP



文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクトは、ライフサイエンス研究の基礎・基盤となるバイオリソース(動物、植物等)について収集・保存・提供を行うとともに、バイオリソースの質の向上を目指し、保存技術等の開発、ゲノム等解析によるバイオリソースの付加価値向上により時代の要請に応えたバイオリソースの整備を行うものです。また、バイオリソースの所在情報等を提供する情報センター機能の強化をすすめています。

理研 BRC は、**実験動物マウス、シロイヌナズナ、ヒト・動物細胞、遺伝子材料、一般微生物**の中核機関としてライフサイエンスの研究の推進に貢献しています。

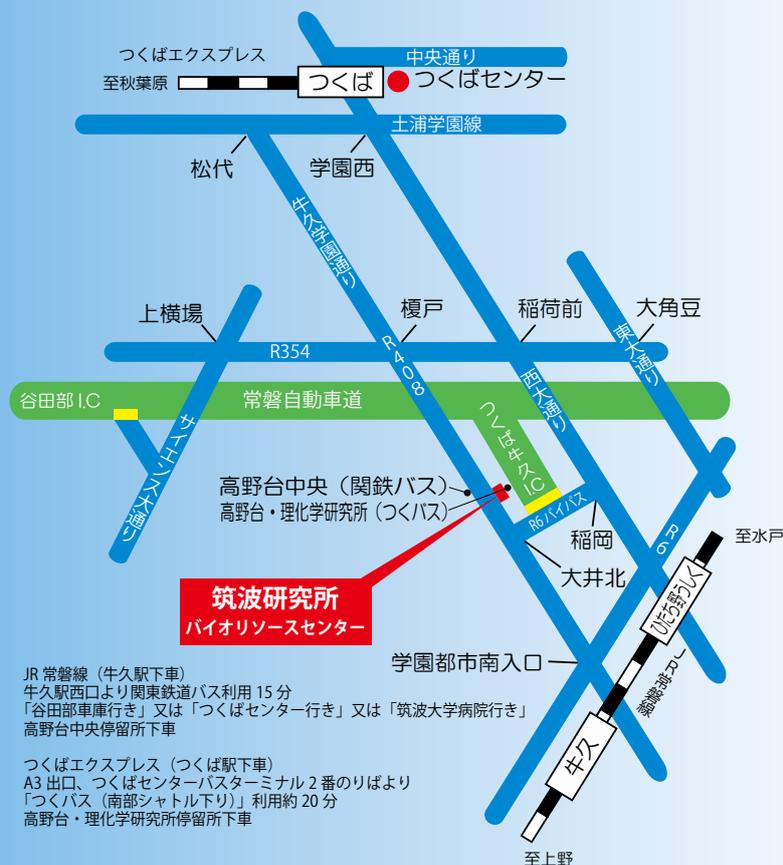
独立行政法人
理化学研究所
筑波研究所

〒305 - 0074 茨城県つくば市高野台3丁目1番地1

TEL 029 - 836 - 9111 (代表)

筑波研究所ホームページ：http://rtcweb.rtc.riken.jp/

バイオリソースセンターホームページ：http://www.brc.riken.jp/



お問い合わせ先

実験動物開発室	http://www.brc.riken.jp/lab/animal/
実験植物開発室	http://www.brc.riken.jp/lab/epd/
細胞材料開発室	http://www.brc.riken.jp/lab/cell/
遺伝子材料開発室	http://www.brc.riken.jp/lab/dna/ja
微生物材料開発室	http://www.jcm.riken.jp/JCM/JCM_Home_J.shtml
情報解析技術室	http://www.brc.riken.jp/lab/intro_info.html
バイオリソース品質管理支援ユニット	FAX 029-836-9182
遺伝工学基盤技術室	http://www.brc.riken.go.jp/lab/kougaku/
動物変異動態解析技術開発チーム	http://www.brc.riken.go.jp/lab/mcd/mcd/
生体情報統合技術開発チーム	
生体応答情報技術開発サブチーム	http://www.brc.riken.jp/lab/intro_seitai.html
細胞運命情報解析技術開発サブチーム	http://www.brc.riken.go.jp/lab/cfm/RIKEN_BRC_CFM/RIKEN_BRC_Miyoshi_Lab.html
マウス表現型解析開発チーム	http://www.brc.riken.jp/lab/jmc/
疾患モデル評価研究開発チーム	http://www.brc.riken.jp/lab/intro_models.html
新規変異マウス研究開発チーム	http://www.brc.riken.jp/lab/mutants/jp/
マウス表現型知識化研究開発ユニット	http://www.brc.riken.jp/lab/bpmp/
石井連携研究グループ	http://rtcweb.rtc.riken.jp/lab/mg/mg.html
篠崎連携研究グループ	http://labs.psc.riken.jp/gdrt/
研究推進部	http://rtcweb.rtc.riken.jp/